フードロスと賞味期限の関係

福井県立武生高等学校

①はじめに

○賞味期限について

食品の品質が変わらずおいしく食べられる期間
(安全に食べられる期間である**消費期限とは異なる！**)
||
賞味期限がすぎてもすぐ食べられなくなるわけではない

農林水産省HP

- **賞味期限が切れた場合に抵抗感を感じる割合　４９％（日本）**
  ⇨抵抗感を感じて捨てることがフードロスの原因に

大森玲子「食品表示に関する意識調査」2014年

- **賞味期限と消費期限の混同による廃棄が考えられる**

②問い

賞味期限表示の撤廃によってフードロスは削減されるのか

消費期限と賞味期限の混同によるフードロスが問題
⬇
賞味期限に対する理解を深める
⬇
賞味期限表示の撤廃するとフードロスが減るのでは？

③仮説

「賞味期限表示を撤廃すればフードロスが減る」

④研究方法

・文献調査
→フードロスや賞味期限についての先行研究を調べる

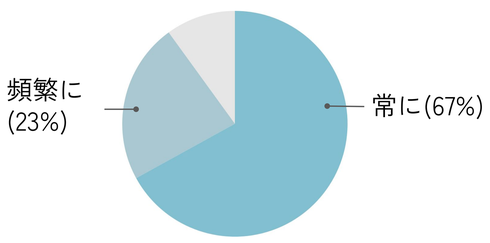
・アンケートを実施
→武生高校の生徒と先生に対して賞味期限に対する意識を調査

⑤結果

○海外文献調査

イタリアでの研究
「『賞味期限』ラベルがなくなったら、イタリアの消費者はどう反応するか」

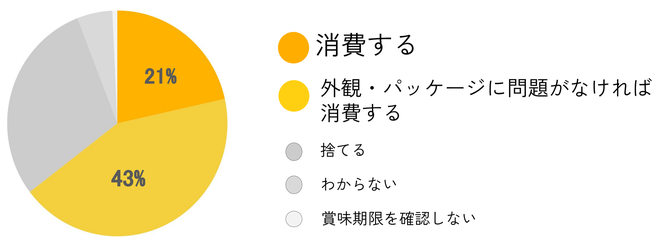
①賞味期限表示をどれくらい気にするか



イタリア人の９０％が
賞味期限表示を気にする
⬇
まだ食べられる食品が
廃棄される原因に

②賞味期限表示がない商品に対する消費者の行動

家の食品庫に、賞味期限表示のないスパゲティを見つけたらどうするか

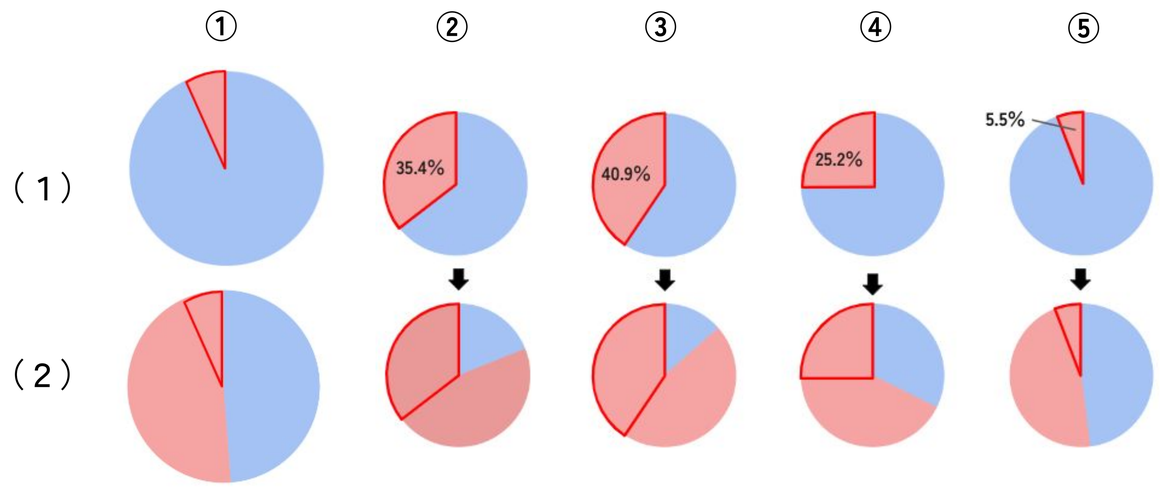


６４％のイタリア人が「消費する」と答えた
⬇
賞味期限表示が撤廃されると、
賞味期限を気にしなくなる人が多い

○アンケート調査

目的：賞味期限表示の有無による日本人消費者の意識
対象：武生高校の生徒及び教員１２７人

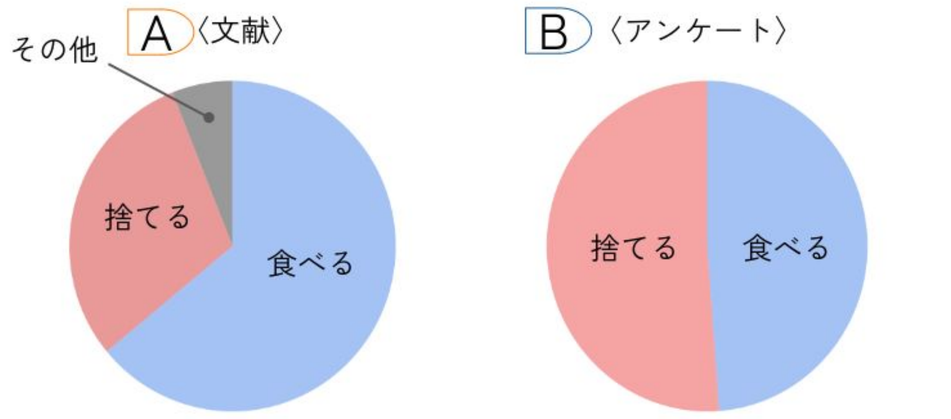
〈質問内容〉
見た目・においに問題がない未開封の
①パスタ②豆腐③ヨーグルト④リンゴジュース⑤チョコレートについて
（１）**賞味期限が切れた**もの
（２）**賞味期限表示がなく、いつ買ったかわからない**もの
が家の冷蔵庫・食品庫にあったら、消費するか捨てるか



賞味期限表示がない方が、捨てる人が多い

⑥考察

賞味期限表示のない商品に対する消費者の行動



多くの人が「食べる」と答えた　　多くの人が「捨てる」と答えた

２つのパターンがあった

賞味期限表示が撤廃されると．．．
A 多くの人が「食べる」場合（文献での結果）
B 多くの人が「捨てる」場合（アンケートでの結果）　　が考えられる。

A が起こる原因
賞味期限を理解していない消費者が
期限表示ではなく見た目や匂いなどを判断基準として消費するから。
（文献が根拠）

B が起こる原因
賞味期限を理解している消費者が
いつ買ったか不明な食品に不安を感じ、捨てるから。
（アンケートが根拠）

⑦結論

・問い「賞味期限表示の撤廃によってフードロスは削減されるのか」
賞味期限を撤廃することで、
⇒**賞味期限を理解していない消費者による廃棄を防ぐ**
可能性がある

⇒**賞味期限を理解している消費者の混乱**を招き、かえって
廃棄される可能性がある

削減に効果的とは言えない

⑧今後の展望

・消費期限と賞味期限の混同による廃棄をなくすためには
⇒**消費者に品質を伝える**という
賞味期限の役割をなくすことなく、理解を進めるような
取り組みが有効

例　賞味期限表示にフレーズを付け加える
（ノルウェーなどで実行された）

〈日本〉
賞味期限の説明を付加的に表示することは可能

賞味期限：2024.1.1
・美味しく食べれる期限です
・期限後すぐに食べれないわけではない

農林水産省消費・安全局表示・規格課「加工食品の表示に関する共通Ｑ＆Ａ」2008年
“BEST BEFORE,OFTEN GOOD AFTER”,Tanja Plasil,2020